



新春対談

長久手市 スタート

市長と語る

新年を迎え、長久手町は市としてスタートを切った。市制の舵取りを担うのは昨年新たな行政の長とされた田一平市長。フレンズの水野美々子会長が市長に文化事業を中心に話を伺いました。

水野..あけましておめでとうございます。

市長..おめでとうございます。

水野..市長の本名が一平(かずひら)さんと知っていて、失礼と承知しながらも「イツペイさん」と呼びしてしまいますね。(笑)

市長..いいんですよ、市長とかいわれるより「イツペイ」で(笑)、言葉は気持ちや心の触れ合いですからね、通じ合えることが大切だと思いますから…。

水野..そうですね。言葉はとても大切ですね。



「住民参加型の暮らし」を語る吉田市長

市長..私自身、一年前には市長になるなんて思ってもいなかったんですよ。

昨年、東日本大震災という不幸な出来事があった、何度も現地に足を運んでいるうちにいろいろ考えさせられましたね。特に、お子さんやお孫さんを失った70歳、80歳台のお年寄りから「ふるさと復興」への熱い気持ちを聞かされ感動というか、頭をたたかれた思いをしましたね。(感慨深げに)

改めて「絆」とは何か、自分たちの町に自然を残しながら、どうやってこの長久手を「ふるさと」として次の世代に残していけるか…その思いに突き動かされ65歳にしてチャレンジしたので。

水野..市長になつて見る目も変わりましたか？

市長..就任してしばらくは役所の人はもちろん、地域単位や施設ごとに皆さんの声を直接聞かせてもらいました。そこで感じたことは、皆さんのいうことは「正しい」ということです。

でも、長久手に限らず今の日本は転換期にあると思います。戦後の復興期から高度成長期の時代の箱物行政で作ってきたものが、改修時期に入ってきているんですね。お金が掛るんですよ。皆さんのご要望を個々に聞けば、正しいことをやっているのだけれど、予算は限られている。その中でどうやって優先順位

を付けるか…、皆さんで議論をオープンにしていくことが大切でしょうね。

「住民参加型」の町づくり

水野..福祉を大切に考え、防災の必要性を強く訴えてみえますが、文化行政について市長はどのようにお考えでしょうか…？

市長..私が一番心配なのは住民の命だと思っっているんです。「福祉」くらし」だと思っ

だから防災の話も福祉の話も「くらし」の面から私の考えから前面に出しています、文化も「くらし」だと思います。そんなすべをひつくるめた「くらしの町づくり」が重要だと思えます。ですから、これに重点を置くのだから、あっちの方はないがしろにして良いというものじゃないんですね。町づくりにバランスを欠いてはいけません。

水野..限られた予算でバランス良く…、むずかしい舵取りですね。

市長..市民の皆さんの役所への期待も大きいと思うのですが、実際市長になって中に入っているのは、役所が引張るかたちから、住民が引張り、役所は後ろから住民をお手伝いするかたちで押し上げて行く「住民参加型」の方が市民のためになると思うのですよ。

水野..「住民参加型」の意味はわかりませんが、その人たちが役所が認めた形にしないと、個人が勝手にやっていると思われてはうまく行かないのでは…との懸念もありますか？

市長..役所がその人たちをオーソライズすることとは大前提ですね。

市長…防災はくらしだといったけど、役所が主導しては本当の意味での「くらし密着型」にはならないと思っ
てね、いま検討してもらっているんで
すよ。「住民参加型」はいずれ市民権を
得るものと私は期待しています。

「文化の家」について

水野…「文化の家」の名称は文化会館では
なく「家」としました。それは市民が
寄り合える所ということ、なるべく
多くの人に足を運んでもらいたいとの
考えからでした。住民が集える場所の
「家」という意味でも「文化の家」は
貢献していると思いますが、市長はど
う思われますか？

市長…職員の採用試験にいろんな町から
若い人が来て話をしてくれる…。

長久手にはリニモが通り、文化の家
があつて都会的な雰囲気がある。農業
との共生もある。それらを含めた全体
で長久手の魅力があると感じるんです
ね。若い人にそういつてもらえるとい
うのはうれしいことですよ。

私は、もう一歩進んで今まで役所が
いろんな形でかわつてきたことを住
民の手に戻したいと思うのです。人と
人との交流に重点を置いてもらいた
い。そうでなければ文化にしても、観
光にしても一過性のもので終わってし
まう。市民の交流というものが薄れた
行事になってしまう。

人と人が交わらない所に強い絆など
が生まれるはずがない。心の温もりを

感じることはできなければ文化は育ま
れないと私は考えているんですよ。
水野…そういう意味ではフレンドは住民
参加型の自主的な活動をしていると自
負しています。

市長…考えてみれば「文化の家」の少人
数の職員だけではこれだけのことは出
来ないですからね。フレンドの皆さん
が居て、職員と協働してうまく運営が
できているんですからね。

水野…文化の家は「自分たちの家」とい
う開館当時から温かい気持ちを含め
も受け継いで、チケットの割引や先行
販売などの特典を受けるだけでなく、
有志の人がスタッフ登録し、自ら事業
にかかわっていく積極的な組織を作り
上げてきました。

市長…そういった意味からも、フレンド
は私が目指す「住民参加型」のまさに
先駆的な存在なのです。(笑)

水野…ノウハウを初めからもつていたわ
けではありません。話し合いながら手
さぐりで活動を始めましたが、責任を
もつて活動するためには専門的な研修
が必要と考え、文化の家と共同で専門
家を招いて「シアターマネジメント講
座」を開きレベルを上げてきました。

川上館長がよく「文化の家とフレ
ンドは車の両輪」とたとえてくださつて
いますが、スタッフはその言葉を胸に
刻んで誇りを持って行動しています。

市長…文化は与えられるものではない。
自分達で作らだし支え合っていく…、
それが「文化の根強さ」になっていく

もののだと思えますね。

長久手流の「文化の根強さ」を

市長…住民のくらしで大切なことは人と
人との交流であり、支え合う人の優し
さです。国の施策から出てくるしくみ
は効率を優先して物事を考えて行く傾
向が強いですね。効率を求めると切
り捨てる部分はどうしても出てくる。

一方で、市民目線から見てもそれで良
いのか…。非効率であったとしても「人
の心の温かさ」が感じられるように、
行政のしくみを民間の知恵と力を借り
て、長久手方式みたいな形でしくみを
見直せないかと考えて、検討してもら
っているんです。

文化の家ではフレンドにいろいろや
つてもらっている。しかも開館当時から
脈々と続けてもらっている。それは
すごいことなので、その輪をもつと広
げていくようになるというんじゃない
かな。何とか、そういうふうに関所
が主導するのではなく、手作り感覚で
進められるならば「文化の根強さ」に
つながっていくように思いますね。

水野…難しいところですね。何となく乗
せられて「やらされている」という感
じにならないようにしないと…。

市長…その通りですね。皆さんはそれぞ
れに、自分は正しいと思う意見を述べ、
要求しているのだと思っています。

でも一方で予算には限りがあるわけ
ですから、全部オープンにしてはどう
かとも考えているんですよ。議員さん

を含めて要求は多々ある。やるべきこ
とをオープンにしないと説得力が無い
から何を優先するかを皆さんが考える
ようになければ良いと思いますよ。

長久手には60歳〜75歳の方が65
00人もいらつしやる。その方々に仕
事してもらつてお金を払つてもう一
度働いてもらおうとも考えています。

水野…今日お話をうかがつて文化行政に
ついても、文化の家についてもご理解
いただいたことがよくわかりました。
これからも文化を大切にしながら、
一緒に頑張つて行かねばならないと思
いました。本日はお忙しいところをあ
りがどうございました。

・田市長にお話を伺う水野会長と機関紙部員



クオーレ・オカリナコンサート 会場に おだやかなハーモニーが 届けられ



フレンズのつどい Part. 26 クリスマスコンサート & ティーパーティー

昨年12月3日 文化の家 舞踊室で

昨年12月3日、文化の家舞踊室でフレンズのつどいPart. 26 クリスマスコンサート & ティーパーティーが開催されました。

コンサートはオカリナ奏者・佐藤益子さんが主宰する、オカリナ合奏団「クオーレ」による演奏で、会場にオカリナの穏やかで暖かいハーモニーが届けられました。

加わり「シルバー・ベル」と続き、曲の合間にはスライドに沿って佐藤さんが静かに語られます。「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」などおなじみの曲や賛美歌、海外の民謡などが演奏され、全17曲の最後は佐藤さんが美しく奏でる「ホワイトクリスマス」。演奏が終わると会場は大きな拍手に包まれました。

後半のクオーレ・コンサートではオカリナの歴史やイタリア語で『オカ(Oca)』は「がちよう」「リーナ(Lina)」は「小さい」を表すなど言葉の由来などのお話しのあと演奏が始まりました。

森で吹くと小鳥が本当に寄ってくるという小さなオカリナで「小鳥のさえずり」、シューベルトの「鱒の主題による変奏曲」では五つのテーマに分けて演奏しました。

「荒城の月」「見上げてごらん夜の星を」などに続き「黄色いさくらんぼ」では演奏しながらの佐藤さんの「うっふん」が会場の笑いを誘っていました。

拍手とハミングで「学生時代の」など全10曲。最後はアンデスの大空を優雅に舞う姿を連想させる「コンドルが飛んでいく」が演奏され、佐藤さんの軽妙なお話とクオーレの皆さんの演奏で楽しい時間もあっという間に過ぎ、会場はオカリナの素朴で優しく温かなハーモニーに魅了された様子でした。

ティーパーティーで

第2部のクリスマスパーティーは文化の家川上館長のあいさつのあと乾杯で始まり、フレンズのつどいは毎年会場されるお客様に十分楽しんでいただくため、テーブルセッティングや飾りつけなどいろいろ趣向が凝らされています。

また、会場の一角にはたくさんのおカリナが並べられ、佐藤さんのお話を聞きながらオカリナを手にとって吹くなど、たくさんの方が興味津々の様子でした。

その後、会場の皆さんでクリスマスソングを歌い和やかに交流が進んだところで、お楽しみ抽選会が行われました。当選者にはポインセチアの鉢が贈られ当選番号が呼ば



お楽しみ抽選会ではポインセチアの鉢が

今回も3つのテーブルに分かれ、初めて参加した人もおすしやサンドイッチなどをいただきながら歓談し、皆さん一緒に楽しい時間が過ごせたようでした。

れるたびに盛り上がり好評のうちにはパーティーが終わりました。

会場で
いただいた声から

♪ オカリナは指使いが難しいです。クオーレの皆さんはすごいですね。早く先生のように吹けたらと思います。
(長久手市・女性)

♪ クオーレの演奏はハーモニーがすばらしかったです。
(豊田市・男性)

♪ 交流会があることは知りませんでした。参加できてとても楽しかったです。
(尾張旭市・女性)

フレンズのつどい Part. 27 のお知らせ 魅惑のフラメンコ

開催予定日 平成24年8月5日(日)
会場 長久手市文化の家・森のホール
出演 中尾 貴子 & ヒラソル(フラメンコダンサー) ほか



詳しくが決まり次第、順次お知らせします
● ご期待ください

長久手市 市制施行記念 初笑いながくて寄席

柳亭市馬 独演会

出演 柳亭市馬

昭和55年 五代目柳家小さんに入門
平成5年 真打昇進 四代目柳亭市馬を襲名

三遊亭歌武藏

おとなりの岐阜県出身・相撲界に身を置いたこともある
巨漢の噺家

ほか

2月18日(土) 14時開演(開場は30分前)
森のホール

木戸銭 前売 フレズ 2,500円 一般 3,000円
当日 フレズ・一般 3,500円

文化の家 映像鑑賞会

マイマイ新子と千年の魔法

2月4日(土)

10時30分から / 14時30分から
風のホール 全自由席

前売 フレズ 400円(前売りのみ) 一般 500円
当日 フレズ・一般 500円 中学生以下 400円

- 関連企画 片瀬須直監督 トークイベント
2月4日(土) 13時
風のホール

ニューセンチュリーコーラス Nagakake

第14回定期演奏会

- I. 二つの宗教曲 カザルス ロッシーニ
- II. ヴィヴァルディが見た日本の四季 編曲 信長貴富
- III. 赤い鳥小鳥 北原白秋童謡詩集 編曲 信長貴富
- IV. Messe in C-Dur シューベルト

2月26日(日) 14時開演 (開場は30分前)
森のホール
全自由席

前売 フレズ 800円 一般 1,000円
当日 フレズ・一般 1,200円

編集者コラム

戦・帰・虎・災・愛・命・偽・変・新・暑…そして「絆」
21世紀に入ってからの「今年の漢字」だ。
長久手にとっての今年の漢字は「始」ではどうか。
出来ない理由を数多く並べるよりも、小さな可能性が一つ
でもあれば、新しい夢への第一歩が始まる。
長久手市が始動する。



長久手演劇王国 vol.12



第9代劇王決定戦

2月11日(土) Aプロ 14時 Bプロ 18時30分 開演
2月12日(日) 決勝巴戦 14時30分 開演
風のホール

1公演券 フレズ 1,200円 一般 1,500円
3公演通し券 3,000円
日時指定:全自由席

好きな街・長久手

ほっと
すぺーす

春日井市在住 安場佳展

私の勤め先は自然環境に恵まれた長久手市前熊にあり、住まいは春日井市ですが私的時間も含め一年の四分の三くらいは長久手に居ると思っています。
友人の写真展で文化の家を初めて訪れた時、森・風・光のホールや展示室など多目的に利用できるこの施設の素晴らしさに感動しました。県芸大もある街なので目から耳から心の栄養素が飛び込んで来る感じがします。
昨年の九月は残暑が厳しく、心地よい夕風が吹き抜けるガレリアで勉強している学生たちの傍らで私も閉館まで本を開いてみました。
私も音楽で、しぼんでいた心を大きく広げられたことや、工芸・手芸で癒されたこともあり

昨年、大きな災害で大変つらい思いをした人々に、音楽はすごい活力を与えてくれることを知りました。世界中の音楽家、アーティストが日本を元気にしてくれました。
音楽、芸術はプロ、アマを問わず素敵な感動を与えてくれます。
私は文化の家スタッフとして公演される様々なステージや裏方で心の浄化をしています。
春の東小学校かいわいの広大な自然が好きです。梅や菜の花が咲きヒバリがさえずり、農道をキジのつがい散歩します。桜は古戦場公園、トヨタ博物館、写真撮りやスケッチにこと欠かない場所です。
人が心豊かに暮らすのに不可欠な、文化と自然がある町を私は気に入っています。